

第2章 河川の現況と課題

第1節 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

利根川中流圏域における過去の大きな水害は、昭和22年、23年、24年、34年、41年、57年、平成3年、14年に発生している。なかでも昭和22年のカスリン台風は、当地域だけでなく群馬県全域で未曾有の大災害をもたらした。また、昭和57年9月の台風18号においても大きな被害が発生している。最近では平成14年の7月に床上浸水を伴う水害が連続して発生している。(表-2.1)

利根川中流圏域における治水事業は、広瀬川、その支川粕川(下流)、^{もものきがわ}桃ノ木川とその支川^{てらさわがわ}寺沢川、^{ふじさわがわ}藤沢川、^{あかぎしらかわ}赤城白川の合流部については改修をほぼ完了している。また粕川の支川^{にらかわ}西桂川、山伏川についても改修を行い完了している。粕川(上流)については昭和55年より中小河川改修事業として着手されている。^{にらかわ}葎川は、昭和37年に小規模河川改修事業として最下流部(広瀬川合流)の改修に着手し、昭和39年より放水路、昭和44年より中流部、昭和47年より上流部の改修に着手し、現在までに完了している。なお、昭和58年より最下流部と放水路の間の改修が進められている。大川は昭和50年より改修事業が進められ完了している。^{あらとがわ}荒砥川の支川^{かんざわがわ}神沢川は、昭和35年～43年、57年～60年までの期間に改修が進められ、^{あらいがわ}宮川は昭和50年より改修が進められた。^{たつのくちがわ}桃ノ木川の支川^{たつのくちがわ}寺沢川は平成8年より、^{ふじさわがわ}藤沢川は昭和63年より改修が進められている。^{たつのくちがわ}竜の口川は、平成8年より改修中である。早川は、昭和46年から中小河川改修事業として改修が進められ完了している。

河川改修の進捗に伴って大きな洪水被害は減少してきたが、^{おいどかわ}男井戸川などの各支川の未改修区間においては、小規模ながら氾濫が頻発し、また内水被害が発生している。利根川中流圏域では今後も都市化が見込まれており、洪水被害軽減のために圏域全体を見据えた治水対策が必要である。

表-2.1 近年の利根川中流圏域の水害

| 年月日 | 原因 | 床上浸水 (戸) | 床下浸水 (戸) | 宅地浸水 (ha) | 農地浸水 (ha) |
|-----------------|----------|-------------|-------------|--------------|--------------|
| S56. 6.22～7.16 | 豪雨、台風5号 | 29 | 79 | 4.0 | 174.5 |
| S57. 9.10～9.13 | 豪雨、台風18号 | 3 | 8 | 0.3 | 0.4 |
| S61. 6.15～7.21 | 梅雨前線豪雨 | | 13 | 125.0 | |
| H 1. 8.12～8.20 | 豪雨、台風14号 | | 764 | 155.0 | 27.6 |
| H 1. 8.24～8.29 | 豪雨、台風17号 | | 48 | 0.5 | 0.4 |
| H 2. 9.11～9.20 | 豪雨、台風19号 | | 12 | 0.5 | |
| H10. 9.16～9.18 | 豪雨、台風5号 | | 4 | | |
| H13. 8.19～8.23 | 豪雨、台風11号 | | 2 | | |
| H13. 8.27～8.31 | 豪雨 | 1 | 17 | | 0.7 |
| H14. 7. 8～7.12 | 豪雨、台風6号 | 4 | 18 | 1.9 | 8.2 |
| H14. 9.30～10. 2 | 豪雨、台風21号 | | | | 44.0 |

出典：水害統計



図 2 - 1 平成 1 1 年 7 月 2 1 日豪雨 (男井戸川浸水状況)

第2節 河川の適正な利用と正常流量の確保に関する事項

利根川中流圏域の多くの河川は、農業用水として利用されている。広瀬川の支川は、ほぼ北から南に放射状に流下して広瀬川に合流している。圏域の河川の平常時の流況は、利根川から取水する広桃用水を主な水源とする広瀬川からの用水供給が多い夏季においては比較的良好であるが、用水供給が減少する冬期においてはあまり良くない状況である。

本圏域は群馬県の発展の一翼を担う主要な地域であり、人口は今後しばらくの間はほぼ横這いで推移することが予想され、また引き続き工業団地への新たな企業進出も期待されているところである。さらに、本圏域は農業の盛んな地域であり、農地は減少傾向にあるが、営農形態の変化により水利用のあり方も変わってきている。

表 - 2.2 利根川中流圏域内水利権内訳

| | 農業用 | 水道用 | その他 | 合計 |
|-------------------------|---------|--------|--------|---------|
| 取水量 (m ³ /s) | 34.6425 | 0.0116 | 0.1465 | 34.8006 |
| 割合 | 99.55% | 0.03% | 0.42% | 100.00% |

出典：平成17年水利権等の取りまとめについて（河川課）

第3節 河川環境の整備と保全に関する事項

圏域の上流域山地部の河川は、浸食運搬作用が活発なため砂礫の堆積が少なく比較的大きな転石がみられる。流域は、アカマツ、クロマツなどの植林地が主体となっている。

圏域の大半を占める中・下流域の平野部では河床の勾配が小さくなり、河床材料は礫質・砂質主体になり、自然河川では州の形成がみられるようになる。広瀬川や早川などの利根川合流付近では安定した流路が形成される。流域は、住宅地・耕作地が主体となっている。

河川の水質については、環境、利水状況に応じて類型指定し、その類型ごとに環境基準が定められている。利根川中流圏域の河川では利根川、早川、広瀬川、桃ノ木川、荒砥川、粕川の6河川に水質測定地点があり、広瀬川、桃ノ木川及び早川下流はB類型、その他はA類型に指定されている。その基準の達成状況は、桃ノ木川と利根川を除きすべての河川で環境基準値を達成していない状況にある。

荒砥川及び粕川は、流域を構成する町村の下水道普及率が低いため、生活雑排水等の流入により、水質が改善されない状況となっていると考えられる。（表-2.3）

圏域の河川には、泥底の止水域を好むコイやドジョウ、石礫底の流水域を好むウグイや放流アユなどが生息し釣り場として利用されている。この他、スナヤツメ、ホトケドジョウ、メダカ、アカザなどの貴重種も確認されている。

また、これらの魚類のほかにも、開けた静水域に生息し水辺の草むらに営巣するカルガモ、水辺や川原で採餌するセキレイ類などの鳥類も生息している。植物については、ヨシやオギなどの抽水植物が広く分布するとともに、ミゾコウジュ、カワジシャ、ミコシガヤなどの貴重種も一部で生息が確認されている。植物については、ヨシやオギなどの抽水植物が広く分布するとともに、ミゾコウジュ、カワジシャ、ミコシガヤなどの貴重種も一部で生息が確認されている。

このように生物の生息には多種多様な環境が必要であるため、生物の生息に配慮した環境の整備、保全が必要である。

生活環境としては、赤城高原、県立赤城森林公園や県立赤城ふれあいの森、^{しきしま} 県立敷島公園、桃ノ木川沿いのサイクリングロード、スポーツセンターなどの施設が整備されイベント、レクリエーションなど人々の憩いの場として広く利用されている。

また、^{かぶらきがわ} 粕川と鍋木川の合流点付近には「赤堀ほたるの里公園」があり、最近少なくなったホタルが見られる。

表-2.3 群馬県下水道処理人口普及率（平成18年3月31日現在）

| 市町村名 | H17年度末 普及率 |
|-------|------------|
| 前橋市 | 68.3% |
| 高崎市 | 73.7% |
| 桐生市 | 73.8% |
| 伊勢崎市 | 21.7% |
| 太田市 | 24.3% |
| みどり市 | 15.3% |
| 富士見村 | 18.3% |
| 吉岡町 | 52.7% |
| 玉村町 | 48.4% |
| 群馬県 計 | 43.6% |

出典：社団法人日本下水道協会・統計資料